



第10回

飛鳥

クリーンアップ作戦

山形県唯一の離島「飛鳥」の美しい海岸を取り戻す清掃活動に参加しませんか？

開催日時 2010年**5月29日**(土) 午前**7時30**～午後**5時30**分
(定期船欠航の場合は中止)

➤ 開催場所 **酒田市飛鳥西海岸**

➤ 参加費 **2,500円** <当日受付にて(往復船賃・保険料・おにぎり代を含みます)>

➤ 募集人数 **100名**(先着順)

※現場の状況の関係上、肉体的な負担の大きい作業となりますので、高校生以上で健康・体力に自信のある方を対象とさせていただきます。

➤ 申込方法 **裏面をご覧ください**

➤ 持ち物 **必要に応じて、飲料水、雨具などご持参ください**

◆おにぎり、ゴム手袋、ゴミ袋等は、主催者側で準備します。
◆昼食は午後1時半以降になります。適宜、軽食など用意してください。

➤ 服装等 **長袖、長ズボン、帽子、長靴等作業に適した服装**

➤ 主催 **飛鳥クリーンアップ作戦実行委員会**

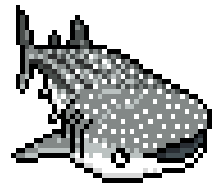
特定非営利活動法人美しい庄内／特定非営利活動法人庄内海浜美化ボランティア
特定非営利活動法人パートナーシップオフィス／社団法人山形県産業廃棄物協会
社団法人酒田青年会議所／東北公益文科大学／飛鳥コミュニティ振興会
海上保安庁酒田海上保安部／酒田市／山形県庄内総合支庁

➤ 協賛 **24時間テレビ・山形放送**

➤ 事務局 **飛鳥クリーンアップ作戦実行委員会事務局(第10回)**

特定非営利活動法人パートナーシップオフィス TEL. 0234-26-2381





第10回 飛鳥クリーンアップ作戦 参加申込みについて

◆募集期間

5月10日(月) 10:00 ~ 5月14日(金) 17:00

ただし、先着順のため定員になり次第締切りとさせていただきますのであらかじめご了承ください

◆申込方法

下記申込書に必要事項をご記入のうえ、この頁をファックスで送信するか電話でお申し込みください
グループでの申込みは5名まで、企業単位の申込みについては事務局にご相談下さい

◎ファックス

0234-26-2381 (5月10日(月) 10:00~、24時間受付)

◎電話

0234-26-2381 (ただし、10:00~17:00まで受付)

◆当日の案内要項送付について

参加決定の方には事務局より当日の案内要項を5月20日頃に発送いたしますのでご確認ください

事務局 ◎特定非営利活動法人パートナーシップオフィス

〒998-0044 山形県酒田市中町1-10-17 まちの駅 酒田なかまち

TEL. 0234-26-2381

2010. 5. 29 飛鳥クリーンアップ作戦

受付番号: _____

参加申込書

2010年5月 日

※当日の案内要項送付・ボランティア傷害保険加入・昼食等準備のため、ご家族やグループでご参加の際はお一人ずつご記入下さい

●団体名/所属等 ()

お名前	ご住所(案内要項送付先)	電話番号	性別	年齢
	〒 -			
	〒 -			
	〒 -			
	〒 -			
	〒 -			



飛島クリーンアップ作戦のこれまでの取り組み 今後も続けていくために

山形県酒田市の飛島は、周囲 12 キロメートル、面積 2.7 平方キロメートル、数年前には人口も 300 人を下回り、高齢化率も高くなる一方の小さな離島です。ほぼ全域が鳥海国定公園に指定されていて、渡り鳥も多く飛来する平均 50 メートルの台地地形の島です。とくに西側にある荒崎海岸は「日本の渚百選」に選定されている景勝地となっています。

この美しい飛島の西海岸には、いつのころからか「漂着ごみ」が大量に押し寄せ、島民の努力だけではとても回収できずに堆積していました。2001 年、飛島を訪れる観光客の声や、島民からの強い要望を受け止めた山形県庄内総合支庁と酒田市は、一般からボランティアを公募した初めてのクリーンアップ事業を行いました。

翌年 2002 年からは、NPO 法人が事務局を担う「実行委員会」方式による「飛島クリーンアップ作戦」として継続実施され、多様な主体が連携した公益活動として多方面から注目されるようになりました。この間、活動の参加者は延 2,591 名に、また回収したごみの量は約 30 トン(9 回のうち 2 回は一部回収のみ、家庭用ごみ袋に換算して約 15,000 袋分)でした。

2008 年には、新潟県の粟島浦村による「粟島クリーンアップ作戦」に実施ノウハウを提供し、島外からのボランティアの協力を得てのクリーンアップ活動が行われています。また 2009 年には、山口県長門市の向津具海岸のクリーンアップ活動にも活かされました。余談ですが、昨年 4 月には元気な飛島をと願って、一家 5 人家族が島に移住され、休校中の小学校が開校しました。

今回で 10 回目を迎えることができた「飛島クリーンアップ作戦」は、毎回、新たな課題に対しても実行委員が工夫策を持ち寄って解決しながら運営されてきました。その中で、恒常的で大きな課題の一つに、事務局を担う NPO 法人の負担があります。第 2 回から 5 回は、NPO 法人パートナーシップオフィスが、第 6 回から 8 回を NPO 法人庄内海浜美化ボランティアが事務局を担当しました。

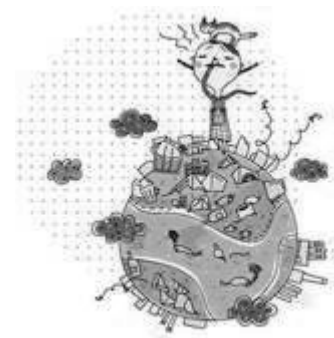
事務局を担当した NPO 法人では、「飛島クリーンアップ作戦」の多額の事業資金の立替から、スタッフの人件費や事務所経費の持ち出しなど、目に見え難い負担を背負ってきていました。そこで第 9 回は、庄内総合支庁に事務局を移管せざるを得なくなったのです。

そして第 10 回は、関係者間で調整を図った結果として、NPO 法人パートナーシップオフィスが再び事務局を担当することになりました。今後、他の NPO 法人でも事務局を担っていただけるためにも、適切な人件費を含めた事務局経費の確保が不可欠です。今後とも、参加費の中から事務局経費を充てていくことにご理解をいただきたく、お願いいたします。

2010年4月

第 10 回飛島クリーンアップ作戦実行委員会事務局

-----* 『海洋(海岸漂着)ごみの話』 *-----



海岸に打ち上げられるごみは、ガラスの破片、空き缶、ペットボトル、魚網、流木、使い捨てライターなど、様々だ。中には注射針などの医療廃棄物などもある。日本の海岸には、1年間で約15万トンのごみが打ち上げられると推算されている。

しかし、それとは比べものにならないほどたくさんのごみが広い海を漂っている。日本の海岸には、河川など国内から出されるごみのほか、韓国語や中国語が印刷された容器がたくさん流れ着いている。その一方で、韓国やハワイでは日本のごみが見つまっている。『海洋(海岸漂着)ごみ』は、国境などお構いなし、国際的な問題でもあるのだ。

海の生き物の中には、プラスチックを餌と間違えて飲み込む、または魚網や釣り糸に絡むなどして命を落とすものがある。

人工物であるプラスチックは、腐らず、小さな破片へと砕け散っていくだけ。細かな破片となったプラスチックは自然界へ悪影響を与え続けるのだ。プラスチックには有害物質が付着しやすく、それを小魚が食べ大きな魚が食べ、まわりまわって人間の口に入れば健康に影響が出る心配も。

海洋ごみは海流や風、波によって運ばれ、その一部が海岸に打ち上げられる。海岸はごみをこしとるフィルターでもあるのだ。その海岸でごみを回収する方法が、再び海へ流さないためにも最も効率的であるといえる。

この問題は行政、民間団体、住民、関係諸国が協力して取り組んでいかなければならない。

飛島クリーンアップ作戦10年の取り組みを記念して

～クリーンアップ参加が入場券～



今年、飛島クリーンアップ作戦は10回目を数えます。産学官民、多様な主体的参加により、10回続けて来ることができました。そこで、クリーンアップ終了後、記念事業を行うことにしました。

【細坪基佳コンサートLIVE2010～風が止まった日～】
元ふきのとうメンバーの細坪基佳さんによる飛島での初コンサート。クリーンアップ終了後、さわやかな海の香りを感じながら、勝浦港の芝生広場で野外コンサートを開催します。

公演/午後2時開演

入場無料(きれいな海を取り戻す活動への参加が入場券です)

【飛島物産ブース】

飛島のみなさんによる島の物産ブースを出店します。島の美味しい海産物も販売します。ぜひ、昼食とともに味わってください。
お土産品の販売も行っております。

酒田海上保安部 【巡視艇海洋環境教室】

クリーンアップ終了後、海上保安庁酒田海上保安部の『巡視艇べにばな』に乗船。30分ほど島の周りを巡り、海の環境についての教室を行います。クリーンアップの参加が乗船券、募集人数は20名程度、定員を超えた場合は抽選になります。